

ハツ場ダム建設

国指定の名勝・天然記念物「吾妻渓谷」の大半が、ハツ場ダムの建設により湖底に沈もうとしています。

昭和二十二年のカスリーン台風を契機に、利根川水系の洪水



鬼石町長

せきぐち 関口 茂樹

鬼石町鬼石

視点

カスリーン21

対策として計画されたのが、下久保ダム(鬼石町)やハツ場ダム(長野原町)などでした。しかしながら、国土の整備が進み、事情が大きく変わった今日、五千億円を超える巨額の税金を使い、ふるさとを代表する美しい渓谷を破壊してまで、五

渓谷は子供たちのもの

崩壊、そして取り返しのでない大規模な自然破壊。下久保ダムの建設が、私たちにこのことを教えています。ダムの果たす役割は大きいですが、失うものも計り知れないほど大きいのです。用水確保や洪水対策を大義名分に、ハツ場ダムをはじめとして、ダム建設計画がめぐる押しです。それらは本当に必要なのでしょうか。

十年前のダム計画を実施する必要があるのか大いに疑問です。ダム建設の多くは、建設の是非をめぐって地元民を長い間苦しめ、揚げ句の果ては移転を余儀なくし、掛け替えのないふるさとをダム湖へ沈めます。ダムによって下流河川は荒廃し、生態系は破壊され、景観は著しく害されます。生活破壊、地域の

いつ、どこが、どの程度の豪雨に見舞われるかは不確かです。降雨のばらつきが大きいことを考えると、ダム群が下流に対して治水効果をもつ確率は小さい。そのうえ、ハツ場ダム予定地は両岸が近接して蛇行するなど、地形的にもともと洪水調節効果をもつ。さらにカスリーン台風当時とは比較にならないほ

ど、今は国土の保全や治水対策が進んでいます。

森林の持つ高い貯水能力は、県の調査で明らかです。洪水への守りは、寿命の短いダム建設ではなく、森林づくり、緑のダムづくりです。流域の乱開発から森と川を守り、河道や堤防を整備し、雨水の地下浸透を進め、遊水池の確保に努めるなど、ダムより確実に効果が得られる方法をとるべきです。

水需要も頭打ちです。工業用水、灌漑(かんがい)用水は横ばい、水道用水だけが多少の増加見込みですが、日本の総人口のピークは二〇〇七年で、その翌年から減少が始まります。ハツ場ダムは水のためだけにダムであり、水質についても問題を抱え、強酸性対策や富栄養化

対策を必要とします。ダムを建設しなくとも、節水や農業用水からの都市用水への転用、そして水のリサイクルなど、代替手段の選択により水需要への対応は可能です。

計画から半世紀、建設目的喪失のハツ場ダム計画を、私は次のように考えます。①ダムの本体工事着工は見送るの付け替え道路など地域振興策は推進する

③水没住民の五十年間の精神的苦痛に対し、国は補償を考える。戦後五十年、経済に特化した国のあり方が問われる今、「美しい自然は子供たちからの借り物です」というエチオピアの言葉が重く響きます。

早大法学部卒。町議から86年に町長となり、現在4期目。国道も鉄道もない市町村全国連絡会長、ダム所在市町村全国協議会常任理事、同県支部長、全国山村振興連盟副支部長などを務める。52歳。